

FUKUI 9. 98 CUP・ナショナルレコードチャレンジ 各種目エントリーリスト

	ナンバー	写真	氏名	所属	ベスト記録	主な競技実績	試合の見所												
ゲスト			塚原直貴	富士通	10秒09	北京オリンピック400m R銀メダリスト	<p>塚原直貴選手（富士通）・高平慎士選手（富士通）藤光謙司選手（ゼンリン）ともに4×100m Rにおいて、メダルを獲得した名選手です。</p> <p>今回は、今大会の趣旨に賛同し特別にファンと走っていただけになりました。今でも、走る姿は若きアスリートのお手本になる美しいフォームを皆様に堪能していただきたいと思います。ゲストの皆様には大きな声援をお願いいたします。</p>												
			高平慎士	富士通	10秒20	北京オリンピック400m R銀メダリスト													
			藤光謙司	ゼンリン	10秒23	ロンドン世界陸上400m R銅メダリスト													
男子 100m	1		桐生祥秀	日本生命	9秒98	2019日本選手権100m 2位・リオデジャネイロオリンピック400m R（3走）銀メダル	<p>☆日本記録 9秒97 サブ ラウンデル・ハイム（フロリダ大）</p> <p>☆世界陸上参加標準記録 10秒10</p> <p>☆東京五輪参加標準記録 10秒05</p> <p>2017年9月9日、桐生選手がこの競技場にて100m/9秒98と日本人で初めて9秒台を記録したのは記憶に新しいところです。</p> <p>近年の日本男子短距離界のレベルアップはめざましく、下記のワールドランキング100位以内に9名もの選手がランクインしています。また、今年に入り、サブブラウン選手が9秒97に日本記録を樹立し、小池選手（住友電工）も先日ロンドンで9秒98を記録しました。現在、日本には3名もの9秒台スプリンターが存在しており、近年稀に見るハイレベルとなっています。</p> <p>桐生選手が本年の最大の目標とするドーハで開催される世界陸上競技大会に向けて、この縁起のよい競技場で再び9秒台を記録し、弾みをつけたいところです。</p> <p>世界陸上競技大会への出場が内定しているのは、現在サブブラウン選手のみで、残りの2名は9月16日発表となります。多田選手（住友電工）白石選手（セレスポ）も含め、各選手が世界陸上参加標準記録を突破し世界陸上大会への出場を目指しております。</p> <p>◎ワールドランキング（7月23日現在）</p> <p>男子100m</p> <table border="0"> <tr> <td>桐生祥秀選手（日本生命）</td> <td>10位(1290P)</td> </tr> <tr> <td>小池優貴選手（住友電工）</td> <td>14位(1272P)</td> </tr> <tr> <td>サブ ラウン・アデル・ハイム選手（フロリダ大）</td> <td>23位(1238P)</td> </tr> <tr> <td>山縣亮太選手（セイコー）</td> <td>28位(1224P)</td> </tr> <tr> <td>多田修平選手（住友電工）</td> <td>46位(1197P)</td> </tr> <tr> <td>川上拓也選手（大阪ガス）</td> <td>52位(1190P)</td> </tr> </table>	桐生祥秀選手（日本生命）	10位(1290P)	小池優貴選手（住友電工）	14位(1272P)	サブ ラウン・アデル・ハイム選手（フロリダ大）	23位(1238P)	山縣亮太選手（セイコー）	28位(1224P)	多田修平選手（住友電工）	46位(1197P)	川上拓也選手（大阪ガス）	52位(1190P)
	桐生祥秀選手（日本生命）	10位(1290P)																	
	小池優貴選手（住友電工）	14位(1272P)																	
	サブ ラウン・アデル・ハイム選手（フロリダ大）	23位(1238P)																	
	山縣亮太選手（セイコー）	28位(1224P)																	
	多田修平選手（住友電工）	46位(1197P)																	
川上拓也選手（大阪ガス）	52位(1190P)																		
2		多田修平	住友電工	10秒07	2017 世界陸上400m R銅メダリスト 2019 日本選手権大会100m 5位														
3		白石黄良々	セレスポ	10秒19	2019日本選手権大会200m 4位														
4		長田拓也	富士通	10秒14	2018年福井しあわせ元気国体成年男子100m4位														
5		犬塚 渉	順天堂大学	10秒25	2016U-20世界陸上4×100m R銀メダル 日本陸連第1期ダイヤモンドアスリート														
6		遠藤泰司	立命館大学	10秒32	2018日本選手権男子走幅跳5位 関西インカレ男子走幅跳4連覇 2018日本インカレ男子走幅跳2位														
女子 100m	7		土井杏南	JAL	11秒43	2012ロンドンオリンピック代表 高校記録、U20日本記録保持者	<p>☆日本記録 11秒21 福島千里（ハイテクAC）</p> <p>☆世界陸上参加標準記録 11秒24</p> <p>☆東京五輪参加標準記録 11秒15</p> <p>今大会は、日本選手権大会において優勝した、御家瀬選手(恵庭北高校)と土井杏南選手(JAL)が中心のレースになるでしょう。</p> <p>土井選手は、2012年5月に11秒43の日本高校記録を樹立しました。しかし、その後しばらくは自己記録を更新できない苦しい時期を過ごしましたが、2019年不死鳥のごとく復活を遂げました。彼女の復活を喜んだ陸上競技ファンは大変多いと思います。</p> <p>また、先日行われた日本選手権大会においては、御家瀬選手か土井選手に競り勝ち高校歴代2位の11秒54をマークし、新たなスターの登場となりました。今大会は、この新旧の100m女王の戦いとなります。</p> <p>また、両者とも世界選手権大会参加標準記録突破を目指しての挑戦です。そこにベテラン和田麻希選手と地元出身島田雪菜選手がどのように食い込むかが見所になります。皆さん、大いに選手達を盛り上げ、大きな声援をお願いします！</p>												
	8		和田麻希	ミスノTC	11秒53	2009ベルリン世界選手権代表													
	9		御家瀬 緑	恵庭北高校	11秒50	2019日本選手権100m優勝													
	10		島田雪菜	ハイテクAC	11秒69	2017日本選手権200m7位													

男子 1 0 0 m H	11		泉谷駿介	順天堂大学	13秒36	2018U20世界選手権男子110mH銅メダル 2019日本選手権110mH2位	☆日本記録 13秒30 高山峻野（ゼンリン） ☆世界陸上参加標準記録 13秒46 ☆東京五輪参加標準記録 13秒32
	12		高山峻野	ゼンリン	13秒30	2019世界リレー男女混合シャトルハードル銀メダル 2019日本選手権110mH優勝 子110mH日本記録保持者 2019ドーハ世界選手権内定	このレースは、日本記録保持者と前日本記録保持者3名の直接対決となり、大いに注目すべきレースになります。 2018年日本選手権大会では金井大旺選手が13秒36の日本記録で優勝しました。2019年の日本選手権大会では高山峻野選手と泉谷駿介選手がやはり13秒36の同タイムでゴールしました。金井選手はこの大会の準決勝でフライング失格（1000分の1秒早く反応したため）となってしまう、3人の直接対決は叶いませんでした。しかし、このレースで真の日本一を決めることとなります。
	13		金井大旺	ミズノTC	13秒36	2019世界リレー男女混合シャトルハードル銀メダル 2018日本選手権110mH優勝 福井国体成年男子110mH優勝	また、高山峻野選手は世界陸上大会への出場内定しています。高山選手は7月27日実業団・学生対抗陸上で13秒30の日本新記録を達成しました。金井選手・泉谷選手とともに世界陸上大会の参加標準記録は突破しているためワールドランキングの順位を上げ、世界陸上大会の出場を決めたいところです。他の選手も、世界陸上大会標準記録を突破するために真剣勝負で挑みます。皆さん、素晴らしい選手達のパフォーマンスをぜひ大きな声援で後押ししてください。
	14		石川周平	富士通	13秒49	2019日本選手権110mH 3位	
	15		矢沢 航	デサントTC	13秒47	2016リオオリンピック代表 2011,2013,2016日本選手権男子110mH優勝	◎ワールドランキング（7月23日現在） 男子110mH 泉谷駿介選手（順天堂大学） 22位(1248P) 高山峻野選手（ゼンリン） 23位(1244P) 金井大旺選手（ミズノ） 32位(1219P) 石川周平選手（富士通） 39位(1207P) 矢沢 航選手（デサントTC） 73位(1153p) 大室秀樹選手（大塚製薬） 92位(1135p) 栗城アソニー選手（新潟アルビレックスAC） 97位(1132p)
	16		栗城アソニー	新潟アルビレックスRC	13秒60	2019日本選手権110mH 5位	
	17		尾形晃広	アサヒ	13秒64	2019日本選手権110mH 出場	
女子 1 0 0 m H	18		紫村仁美	東邦銀行	13秒02	2017ロンドン世界選手権出場 2018アジア大会 7位 2019日本選手権 4位	☆日本記録 13秒00 金沢イボナヌ（佐田建設） ☆世界陸上参加標準記録 12秒98 ☆東京五輪参加標準記録 12秒84
	19		青木益未	七十七銀行	13秒15	2019世界リレー男女混合シャトルハードル銀メダル 2018日本選手権女子100mH 優勝 2019日本選手権女子100mH 2位	今レースの注目は、日本選手権大会において2位に入賞した寺田明日香選手（パソナグループ）をはじめとする各選手達が、100mHにおいて日本人初の12秒台を記録することができるかどうか注目が集まります。 特に寺田明日香選手は、2009年6月・7月に2度13秒05という12秒台目前の記録を樹立しました。しかし、その後しばらくは自己記録を更新できない苦しい時期を過ごし、2013年に一度競技から離れてしまいます。しかし、2019年不死鳥のごとく復活を遂げました。彼女の復活を喜んだ陸上競技ファンは大変多いと思います。結婚・出産を経験して今シーズンに復活した寺田選手に、大いなる声援をお願いします。また、紫村・青木・福部・田中選手などワールドランキングにランクインし、今シーズン12秒台に近づいている選手が多数出場しています。
	20		福部真子	日本建設工業	13秒14	2019日本選手権女子100mH 6位	どの選手も世界選手権大会参加標準記録突破を目指しての挑戦です。皆さん、選手達に大きな声援をお願いします！
	21		田中佑美	立命館大学	13秒22	2018日本インカレ女子100mH 3位	◎ワールドランキング（7月23日現在） 女子110mH 木村文子選手（エディオン） 21位(1224P) 紫村仁美選手（東邦銀行） 39位(1194P) 青木益未選手（七十七銀行） 47位(1188P) 福部真子選手（日本建設工業） 76位(1149P) 田中佑美選手（立命館大学） 81位(1148P)
	22		寺田明日香	パソナグループ	13秒05	2008, 2009, 2010日本選手権女子100mH 優勝 2019日本選手権女子100mH 3位	
	23		大久保有梨	ユティック	13秒37	福井県記録保持者 2018日本インカレ女子100mH 7位	
	24		佐々木天	筑波大学	13秒59	2018関東インカレ100mH 4位	
	25		武部 真央	ツェーゲンRC	13秒64	2018日本選手権100mH 出場	
	26		川島卯未	中央大学	14秒33		

男子800m

27		川元 奨	スズキ浜松AC	1分45秒75	2018リオオリンピック代表 2013-2018日本選手権男子800m優勝 日本記録保持者
28		クレイアーロン竜波	相洋高校	1分46秒59	2019日本選手権男子800m優勝
29		横田真人	N T T C	1分46秒16	2009-2012日本選手権男子800m優勝
30		村島 匠	福井県スポーツ協会	1分47秒01	2018福井国体成年男子800m優勝
31		松本純弥	法政大学	1分47秒80	2019関東学生陸上競技対校選手権大会優勝
32		花村拓人	関西学院大学	1分47秒61	2018日本選手権800m5位
33		梅谷健太	サンベルクス	1分47秒80	2018福井国体成年男子800m2位
34		林 貴裕	順天堂大学	1分48秒19	2019日本学生個人選手権男子800m4位

☆日本記録 1分45秒75 川元 奨 (スズキ浜松AC)
 ☆世界陸上参加標準記録 1分45秒80
 ☆東京五輪参加標準記録 1分45秒20

このレースは、新旧の800mエースがドーハ2019世界陸上競技選手権大会、2020東京オリンピック出場及び決勝進出を目指して、本気のレースを展開するレースになります。

2013年から日本選手権6年連続優勝した川元奨選手(スズキ浜松AC)が大本命であった今年の日本選手権。この大会で彗星のごとく登場したのが、神奈川県相洋高校3年生のクレイアーロン竜波選手です。そのレースでは2人の一騎打ちとなり、クレイアーロン竜波選手が優勝を果たしました。しかし、2人とも世界陸上大会の参加標準記録にあと一步届きませんでした。そこでこのレースをリベンジとして、1分45秒80の突破を目指してのハイペースのレースが展開されます。

このレースの、ペースをつくってくれるのが、川元選手が出現するまで日本選手権者であった横田真人選手です。そして、その後を生きのよい学生ランナーがペースをつくります。現在日本の800mトップ選手達が一丸となってハイペースの流れをつくり、ラスト200mを命がけて走り抜き記録を目指します。

400m(1周目)は51秒くらいで通過し、500mを1分04秒、600mを1分17秒で通過をしたら、待望の大記録が樹立する可能性が高くなります。観客の皆様この数字を覚えてください。51秒、1分04秒、1分17秒です。皆さんの応援が選手にとって大きな力になります!手拍子と声援で後押しして下さい。

また、このハイペースのレースに、昨年福井国体優勝の村島匠選手、花村拓人選手、松本純弥選手、梅谷健太選手がどこまで食らいつくかも見所になります。

◎ワールドランキング (7月23日現在)

男子800m

川元 奨選手(スズキ浜松AC) 56位(1149P)

クレイアーロン竜波選手(相洋高校) 83位(1120P)

西久保達也選手(早大) 99位(1107P)

ナショナルレコードチャレンジ200m	35		山下 潤	筑波大学	20秒46	2018年日本選手権200m 3位 2018年アジア大会200m 出場 2019年日本選手権200m 5位	<p>☆日本記録 20秒03 末續慎吾 (ミズノ)</p> <p>☆世界陸上参加標準記録 20秒40</p> <p>☆東京五輪参加標準記録 20秒24</p> <p>このレースは、日本記録及び世界陸上競技大会の参加標準記録突破を目指すために、招待レースとは別に特設した種目です。各選手が真剣勝負を臨んできます。</p> <p>飯塚翔太選手 (ミズノ) が、今年の日本選手権において100m第4位に入賞しました。しかし、本職の200m予選においては足の怪我により途中棄権してしまいました。その怪我也癒え、世界陸上競技大会の参加標準記録を突破するために、今大会に挑みます。</p> <p>山下潤選手 (筑波大) 白石黄良々選手 (セレスポ) からも参加標準記録の突破を目指します。</p> <p>◎ワールドランキング (7月23日現在)</p> <p>男子200m</p> <p>小池優貴選手 (住友電工) 12位(1264P)</p> <p>ザブ ラウン・アデル・キム選手 (70kg大) 22位(1205P)</p> <p>山下 潤選手(筑波大) 48位(1161P)</p> <p>白石黄良々選手 (セレスポ) 84位(1128P)</p>
	3		白石黄良々	セレスポ	20秒68	2019年日本選手権200m4位	
	36		飯塚翔太	ミズノTC	20秒11	2018日本選手権200m優勝 リオデジャネイロオリンピック400mR銀メダル	
	37		高瀬 慧	富士通	20秒14	ロンドンオリンピック200m、1600mR代表 2012日本選手権200m優勝	
	38		原翔太	スズキ浜松AC	20秒33	2014日本選手権200m優勝	
	39		猶木雅文	大阪ガス	20秒44	2018全日本実業団選手権200m 2位	
	40		飯塚拓巳	中央大学	20秒80	2019静岡県選手権200m 優勝	
ナショナルレコードチャレンジ男子走幅跳			橋岡優輝	日本大学	8 m 2 2	2019ドーハ世界陸上代表内定 2019アジア選手権金メダル 2017-2019日本選手権男子走幅跳優勝	<p>☆日本記録 8m25 森長正樹 (日大)</p> <p>☆世界陸上参加標準記録 8m17</p> <p>☆東京五輪参加標準記録 8m22</p> <p>日本の男子陸上競技界において、近年最も世界のレベルに近づいた種目の一つが、この男子走幅跳です。下記のワールドランキングの100位以内に入っている日本選手が6名もいます。しかも、橋岡優輝選手は10位にランクされています。それほど今の日本男子走幅跳が高レベルになったことがうかがえます。</p> <p>このワールドランキング100位以内の選手全員が、本大会にエントリーしています。</p> <p>特に注目されるのは、現在若干21歳で、先日のアジア選手権大会と日本選手権大会ともに優勝した橋岡優輝選手(日本大学)です。橋岡優輝選手のご両親は、ともに陸上競技において日本一に輝いた方です。古くから陸上競技を知っている方ならご存知だと思います。そのご両親から受け継いだDNAで、東京オリンピックでも金メダルを獲得しても不思議ではない素質を持っています。また、現在日本記録を保持している森長正樹選手(当時：日本大学)が、現在橋岡選手を指導しています。橋岡選手が恩師の記録を塗り替えることが最大の恩返しになります。</p> <p>橋岡選手以外でも、先日ベルギーで行われた国際陸上競技大会にて8m32cm(追い風参考記録)の大ジャンプをみせた絶好調の城山正太郎選手(ゼンリン)。水戸国際陸上競技大会で8m04cmを記録した山川夏輝選手(東武トップツアーズ)。関東学生陸上競技選手権大会にて8m26cm(追い風参考記録)を記録した津波響樹選手(東洋大学)など、まれに見る好素材のそろった2019年です。しかも、このメンバーが一堂に会して試合を行うということは奇跡に近い状況です。会場の皆様、このハイレベルでダイナミックな素晴らしいパフォーマンスを十分お楽しみください。</p> <p>また、大きな声援、大きな拍手、全力手拍子で、見える形での応援よろしく願っています。</p> <p>◎ワールドランキング (7月23日現在)</p> <p>男子走幅跳</p> <p>橋岡優輝選手 (日本大学) 10位(1250P)</p> <p>城山正太郎選手 (ゼンリン) 20位(1206P)</p> <p>山川夏輝選手 (東武トップツアーズ) 31位(1183P)</p> <p>津波響樹選手 (東洋大学) 37位(1171P)</p> <p>嶺村鴻汰選手(富士通) 61位(1133p)</p> <p>外川天寿選手(国際武道大学) 73位(1121p)</p>
			城山正太郎	ゼンリン	8 m 0 1	日本歴代19位 アジア選手権5位	
			山川夏輝	東武トップツアーズ	8 m 0 6	2019日本選手権3位 日本歴代13位	
			津波響樹	東洋大学	8 m 0 9	2019ユニバーシアード代表 日本歴代11位	
			嶺村鴻汰	富士通	7 m 9 5	2019日本選手権5位	
			外川天寿	国際武道大学	8 m 0 0	2019日本選手権8位	
			下野伸一郎	九電工	8 m 1 1	2017アジア選手権6位 2018日本選手権2位	
			小田大樹	ヤマダ電機	8 m 0 4	日本歴代15位	
			小森 翔	友陸物流	7 m 9 8	2019日本選手権6位	
			手平裕士	オークワ	7 m 9 7	2019日本選手権2位	
		佐久間晃大	横浜リデラ	7 m 8 4	2019日本選手権4位		
		遠藤泰司	立命館大学	7 m 8 0	2018日本選手権男子走幅跳5位 関西インカレ男子走幅跳4連覇 2018日本インカレ男子走幅跳2位		